



主張

共に育てる

伊藤 正夫

「先生方それぞれが、学校の顔です。保護者の方、地域の方に……」

先日の打ち合わせで、生徒指導担当から出された文書の一文です。いろいろな取組・改革を進めるとき、教員の意識改革が必要だとよく言われますが、このような言葉が、私たちの言葉として出てくることは大変意味のあることだと思います。些細なことですが、夏休みのラジオ体操への参加についても、学校から参加すべき回数を示すことから、地区ごとに地域の方から「こんな風に参加してほしい」という思いを生徒にお話しいただいて、回数も含め参加の仕方を考えるようにしました。このように、生徒を巡る様々な活動について、PTAや地域にお願い・協力していただくことが、生徒の育ちに意味があるのではないかとという観点で、PTAや地域の方々から見直す取組を行ってきたからこそ出てきた言葉だと思います。

その前提としてきたのが、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を果たし、機能を生かすということです。このことについて、学校は、「生きる力」を培うという役割がある中、「家庭は、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する場であり、すべての教育の出発点である。」「地域社会は、大人や異年齢の隣人と共に、様々な生活体験・社会体験や自



然体験を通して、「生きる力」をしつかりと根付かせる場である。」と考えています。

本校では、「中学生からのハローワーク」という、職業講話をPTAの活動として実施していただいています。本年度は、三十九人の方が四十一講座開設してくださいました。この活動の大まかな流れは次のようです。

- ① PTAの執行部の方々が、前年度中に新執行部の方と協力して、講師を依頼する。
 - ・ 講師をお願いする方：校区に住んでおられる方か、校区の事業所等にお勤めの方。
 - ・ 地区の広報等も利用して公募する。
- ② PTA執行部の方が分担して、「講師プロフィール集」を作成する。
- ③ それを基に、生徒は講座を三コマ選択し、講師への質問等を書き、PTAの担当の方を通して、事前に講師に届ける。
- ④ 講座に必要な機材等の打ち合わせや当日の運営もすべてPTA活動として分担される。

※地域や校区の小学校にも案内され、当日、小学生や卒業生、地域の方も参観する。

⑤ 後日、「生徒感想文集」をまとめ、講師の方々に届ける。

このような活動の中で、毎年新しい講師の方が参加してくださり、PTAによる地域の人材の発掘が行われています。また、二年生が二期期に行う職場体験についても、講師の方々のいくつかの事業所で引き受けていただくよう依頼しておくことで、学校が行うキャリア教育とも連動させるようにしています。

これらの取組は、PTA（家庭）が主体となつて、地域を巻き込みながら学校のキャリア教育を推進するという、まさにそれぞれの機能が発揮されたものではないかと思えます。

（全日中副会長・岐阜市立青山中学校長）